

カドコオオベソマイマイ *Aegista goniosoma* (Pilsbry et Hirase)

【選定理由】

愛知県では限られた地域に確認されるのみで、個体数も少なく、希少な種である。本種の西限分布地域の個体群としても重要である。本種が生息できる森林環境は、開発などにより明らかに減少しており、近年の急激な気候変動に伴い、将来的に絶滅の危険性を考慮すべき種と判断された。

【形態】

殻長 7.4 mm、殻径 14.1 mm 程度の小型の種である。殻は、螺塔が低く、円盤状の形状である。周縁は強く角張るが、個体や地域により差異が認められる。鳳来寺山頂部の個体は特に周縁角が鋭く、愛知県内で最も本種の特徴を良く表している個体群である。ただし、豊田市などでは、周縁角が弱く、コオオベソマイマイとの区別が難しい個体も見られる。

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県内では、東部の三河山地に分布しており、豊田市 (川瀬, 2012) や新城市 (鳳来寺山) (矢野・早瀬, 2014) で確認されている。

【世界および国内の分布】

日本国内の固有種であり、主な分布域は、関東地方である。

【生息地の環境／生態的特性】

良好な広葉樹林やその付近に位置するスギ植林の林床部の落葉下に生息する。地上性種であり、一生を通して、落葉下のリター層や地表面で活動する。

【現在の生息状況／減少の要因】

豊田市 (駒山など) や新城市 (鳳来寺山) などに生息地が知られる。山地の森林林床部に生息している。愛知県内においては、本来、個体数の少ない希少種であるが、近年の夏季の高温化に伴う森林環境の乾燥化、開発による生息環境の減少などが懸念される。

【保全上の留意点】

生息個体数が少ない種であり、本種の保護には、個体の保護よりも生息環境の維持と保全が重要である。

【特記事項】

県内に生息するコオオベソマイマイと共にアラハダヒロベソマイマイの亜種として扱われていたが、分子系統解析ではカドコオオベソマイマイはこれらの種との分化が示されており (Hirano et al., 2014)、種レベルでの分化があると考えられる。愛知県内のカドコオオベソマイマイに関しては、分子系統解析により、どの様な結果が示されるのか現時点では不明だが、県内のカドコオオベソマイマイとコオオベソマイマイとの明瞭な分化が示された場合は、今後、本種をより貴重な個体群として扱う必要性が生じるだろう。

【引用文献】

- Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K., Chiba, S., 2014. Substantial incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of the land snails *Aegista*, *Landouria*, *Trishoplita*, and *Pseudobuliminus* (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia, *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 70: 171–181.  
川瀬基弘, 2012. 愛知県豊田市に生息する陸棲軟体動物, 豊田市史研究, (3): (57) 122–(80) 99.  
矢野重文・早瀬善正, 2014. 鳳来寺山のオオベソマイマイ属について, かきつばた, (39): 28–30.

【関連文献】

- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類, 23–40. in: 佐藤正孝・安藤 尚(編), 愛知の動物, 325 pp. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.  
財団法人自然環境研究センター(編), 2010. 自然環境保全基礎調査 動物分布調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.

(早瀬善正)



新城市鳳来寺山山頂部, 1988年12月25日, 木村昭一採集